

高校でのキャリア教育

11月号では、中高一貫校として中学校では大学への憧れや職業観を育て、高校で学問分野や大学について知るための取り組みを行う東京都立白鷗高等学校・附属中学校と、著名人による「キャリア教育講演会」などによって、学部・学科や職業選びに留まらない、自分の生き方そのものを考えさせるキャリア教育を行う熊本県立玉名高等学校の取り組みを紹介する。

中高一貫校の強みを生かし 中学校からのキャリア教育を実施

東京都立白鷗高等学校・附属中学校

東京都台東区の上野駅や浅草寺に近い地域に立地する東京都立白鷗高等学校は、1888（明治21）年に設立された東京府高等女学校を前身とする伝統校である。2005（平成17）年には附属中学校が開設され、都立初の併設型中高一貫校となった。都立中高一貫校全体の教育理念である「未来を切り開くリーダーの育成」の下で生徒を育成している。6年間で行うキャリア教育について、校長の若井文隆先生と進路部主幹教諭の瀧島昭克先生にお話を伺った。

中1で、社会人や大学生の話を通して 将来への夢を育む

白鷗高校は都立で初めて設立された併設型中高一貫校だ。1学年6クラスのうち、4クラス分にあたる約160名の生徒が附属中学校から進学する。

中高一貫校のメリットは、高校受験を意識せずに体系的な6年間のカリキュラムで学ぶことができることだ。これはキャリア教育についても同様である。同校では、中学校で大学への憧れや職業観を育て、高校で学問分野や大学について知るための取り組みを行う。キャリア教育に関する取り組みを定期的に行うことで、学習意欲や進路意識を喚起し、生徒の志望する進路実現を支援している。中学校の取り組みから順にみていこう。

中学校1年生ではまず、「職業講話」という、社会人を招いた講演会を行う。講師は毎年6～8名で、新聞記者、バレエ教師など多彩な顔ぶれである。生徒は興味のある職業を1つ選んでその講師の話聴く。事前学習と



若井文隆 校長



瀧島昭克 主幹

して、選んだ職業ごとに20名程度ずつのグループに分かれ、仕事の内容について調べて模造紙にまとめる活動を行っている。

講演の内容について瀧島主幹は「仕事の内容紹介などに加え、今勉強していることは、将来の仕事に活かせるように生徒が思えるように話をしてもらっています」と説明する。例えば、海洋研究開発機構地球深部探査センターの地球深部探査船『ちきゅう』で働く研究者の講演では、探査船での仕事内容に加え、船にはさまざまな国の人が乗っているのも専門分野の知識だけでなく英語によるコミュニケーションが必要であることなどを話してもらったそうだ。

夏休みには、2泊3日で「宿泊体験行事」が行われる。これは10名程度のグループに分かれて、決められたテーマについて調べ、ディスカッションをしてまとめ、発表するというものである。

テーマは「伝統的な住宅の衰退について」「LCC（格安航空会社）について」などの4つで、事前にグループごとにテーマを選んで調べ学習をした。テーマに関連して、今年度は千葉県成田市のホテルで行った。合宿1日目の午後と2日目の午前中に国立歴史民俗博物館と航空

<図表1>模擬授業のテーマ (2012年度)

	分野・学問系統	テーマ
1	文 学	日本上代文学について
2	語学・国際	国際学とは何か ～いま世界で起こっていること～
3	心理学	モチベーション(動機づけ)の心理学的分析 ～人の学習意欲って?～
4	法 学	働きはじめる前に知っておきたい労働法
5	経済・経営・商	給料はどう決まっているか? どう決めたらよいか?
6	教 育	キャリアと教育 ～マルチ能力の生かし方～
7	理学系統	二酸化炭素からプラスチックをつくる
8	農学・バイオ	おいしいトマトを作るには? ～収量と品質の関係～
9	工学(機械工学)	流れとエネルギー ～流れを知ってエネルギーを上手に使おう～
10	工学(情報工学)	高度情報処理社会と情報工学
11	薬 学	薬になる植物 ～天然の薬の宝庫～
12	看護・医療系統	感染看護学 ～バイ菌なんて怖くない～

科学博物館を全員で訪問し、それぞれ自分たちの議論を深めるための資料を収集した。2日目の午後から夜にかけては収集した資料をもとに意見をまとめ、パワーポイントを作成し、最終日にプレゼンテーションを行った。

この行事の特徴は、生徒の活動に大学生のボランティアがかかわっていることだ。事前学習から「宿泊体験行事」の期間中まで、ずっとグループに1人ずつ、東京大学など都内の大学の学生らがスタディツアーの企画・運営を行う一般社団法人リディラバの学生がついて、ボランティアで調べ学習やプレゼンテーションを支援している。「大学生は、事前学習でのテーマの切り口のアドバイスに始まり、博物館での資料収集の仕方、パワーポイントの作成方法、プレゼンテーションの構成、説明の仕方などのプレゼンテーションスキルを指導してくれました。生徒と大学生は消灯直前まで、熱心に準備をしていました」(若井校長)

最終日は、まず5グループずつでプレゼンテーション

を行い、上位2チームで決勝を行い、大学生が審査員を務め、優勝チームを決定した。

2日目の夜には、大学生と話す機会を設け、大学生生活の様子や、中高生でしておくこととは何かなどについて話してもらっている。

大学生に協力を得る理由について若井校長は「本校の生徒はほぼ全員が大学に進学するため、中学校1年生から大学生とはどんな存在かを伝えることは非常に有意義だと考えています。また大学や社会に出てから必要になる資料調査やディスカッション、考えをまとめてわかりやすくプレゼンテーションをするスキルについても、中学校1年生という早い段階で優れたプレゼンテーションについて学ぶことは大切です」と語る。

**中2の職場体験で勤労観を育成し
中3では東京大学を訪問して大学進学意識を高める**

中学校1年生で、生徒に社会人や大学生の様子を見せて憧れを持たせた後、中学校2年生では実際に働く体験をして職業観の育成を図る。

夏休みには、新潟県の農家に2泊3日宿泊して「農村体験」を行う。「期間中は、仕事を手伝わせてもらい、近隣の温泉に連れて行ってもらうたりもしているようです」(瀧島主幹)

11月には3日間の「職場体験」を行う。受け入れ先は学校近隣の企業や店舗で、体験する内容は受け入れ先によって異なる。土地柄、どじょう料理で有名な江戸時代からの老舗の料理店で接客や洗い物などをした生徒もいれば、浅草神社で巫女の仕事を体験したり、スーパーマーケットで接客や商品の整理を体験した生徒もいる。また消防署に行った生徒は、消防士の仕事は火災の消火だけでなく消防点検などさまざまな仕事があることを学んできたという。

瀧島主幹は「日頃から挨拶を厳しく指導していることもあって、好意的に受け入れていただいています。受け入れ先の事業所から『よく働いてくれるので1週間くらい来てほしい』と言われることもあります」と胸を張る。

中学校3年生では、「上級学校訪問」として3年生全員で近隣にある東京大学の本郷キャンパスを訪問する。講堂や図書館などの大学の施設見学、教員による短時間の講義の聴講、研究室の見学などを行う。「本校から本郷キャンパスまでは地下鉄で2駅、徒歩でも行けるとい

う近さも東京大学に行く理由のひとつですが、東京大学を通して大学とはどのような場所でどんなことを学ぶかを知り、自分も大学で勉強して人の役に立ちたいという高い志を持たせることが最も大きな理由です」(瀧島主幹)

なお、中高一貫校のため中学校3年生は中だるみを起こしやすい時期であり、この時期に東京大学を訪問することにより、大学進学に向けてのモチベーションを維持する狙いもある。

高校では「模擬授業」や、社会人や卒業生の話を通して希望する進路を定める

高校からは志望する進路実現に向けての準備を始める。瀧島主幹は「高校1年生ではキャリア教育関係の目立った取り組みはありませんが、外部模試を受けさせるなどしながら、将来の進路を実現するために、しっかり学力を身につけるよう指導します」と話す。

高校2年生では、7月の期末考査後に大学の教員を招いた「模擬授業」を実施している。講師には、さまざまな大学から文学、語学・国際、心理学、法学、経済学、

教育学、理学、農学、工学（機械工学・情報工学）、薬学、看護・医療の12の学問分野の教員を招き、質疑応答を含めて2コマ（100分）で授業を実施してもらう<図表1>。生徒は興味・関心のある分野の講義を1つ選んで受講する。講義を聞くことで、自分の志望している学問分野について、知識・関心を深めることが目的だ。

高校2年生の夏休みには4泊5日で希望者による勉強合宿を行い、大学受験へと意識を切り替える。日中は英語・数学・国語を中心に、理科と地理歴史、公民も含めて授業を行い、夜は自習の時間となる<図表2>。今年度は2年生の生徒238名中113名が参加した。

12月には、東京大学の教員や、弁護士など専門性の高い職業人を1人招いて、「進路講演会」を実施している<図表3>。「主に、大学で学ぶということや、学んだことが仕事にどうつながっているか、勉強することの意味などについて話してもらい、大学進学に向けた心構えができるようにしています」(瀧島主幹)

3月末には、卒業生を招いて大学受験について話してもらう「懇談会」を実施する。以前は高校3年生の6月や7月に実施していたが、より早くから受験に対する意

<図表2>勉強合宿の時間割（2013年度、高校2年生）

		理系選択者		文系選択者		会場5
		会場1	会場2	会場3	会場4	
8/6 (火)	Ⅲ 13:00～14:30	英語基礎	英語発展	生物	地学	
	Ⅳ 14:50～16:20					
	Ⅴ 19:00～22:00(自習)	5・6組 (34名)	2・4組 (38名)	1・3組 (41名)	質問室	
8/7 (水)	Ⅰ 8:30～10:00	数学基礎	数学発展	英語基礎①	英語発展①	
	Ⅱ 10:20～11:50					
	Ⅲ 13:00～14:30	生物①	物理①	古文基礎① / 現文基礎①	現文発展① / 古文発展①	
	Ⅳ 14:50～16:20					
	Ⅴ 19:00～22:00(自習)	5・6組 (34名)	2・4組 (38名)	1・3組 (41名)	質問室	
8/8 (木)	Ⅰ 8:30～10:00	生物②	物理②	英語基礎②	英語発展②	
	Ⅱ 10:20～11:50					
	Ⅲ 13:00～14:30	文理地理	文理公民	世界史①	日本史①	
	Ⅳ 14:50～16:20					
	Ⅴ 19:00～22:00(自習)	5・6組 (34名)	2・4組 (38名)	1・3組 (41名)	質問室	
8/9 (金)	Ⅰ 8:30～10:00	現文基礎 / 古文基礎	古文発展 / 現文発展	数学基礎	数学発展	
	Ⅱ 10:20～11:50					
	Ⅲ 13:00～14:30	化学基礎①	化学発展①	世界史②	日本史②	
	Ⅳ 14:50～16:20					
	Ⅴ 19:00～22:00(自習)	5・6組 (34名)	2・4組 (38名)	1・3組 (41名)	質問室	
8/10 (土)	Ⅰ 9:00～10:30	化学基礎②	化学発展②	古文基礎② / 現文基礎②	現文発展② / 古文発展②	
	Ⅱ 10:50～12:20					

識を高めるために、高校2年生の3月末に変更した。卒業生はその年の卒業生を中心に、大学2～3年生にも声をかけ、約12の学問分野ごとにそれぞれ3～4人ずつ、計30～40人を招いている。

当日はまず2名の卒業生に生徒全員に向けて話をしてもらった後、生徒は志望する学部・学科に分かれて、卒業生からどの時期にどんな勉強をしていたか、部活動との両立といった具体的な話を聞き、質疑応答を行う。「中学校から6年間通っている生徒にとっては、2年上の先輩でも顔見知りのため、親近感を持って話を聞くことができます。また、高校から本校に入学した生徒の中には中学校からの生徒に比べて勉強が遅れていることに不安を持っている生徒もいますが、懇談会には高校から入学した卒業生も招き、合格への道のりを話してもらうことで、不安を払拭してもらっています」(瀧島主幹)

ところで、同校では、高校1、2年生に夏休みにオープンキャンパスに参加することを推奨している。これも都内の高校の強みで、場合によっては1日で複数の大学のオープンキャンパスを回ることも可能だ。「高校1年生は友だちと誘い合っているいろいろな大学のオープンキャンパスに参加し、高校2年生は志望する大学や学部・学科に絞って見学するなどしているようです」(瀧島主幹)

高校3年生では、高校2年生の生徒が大学の教員による模擬授業を受けるのと同じ時間に、首都圏の国公立大学や有名私立大学あわせて、約30校による大学説明会を開催している。こちらは1時間の説明会を2回開いてもらい、生徒は2つの大学の説明を聞くことができるようにしている。

また進路実現のための学習指導として、中学校1年生から高校3年生まで夏期講習を充実させているのも特徴である。ちなみに2013年は、高校3年生向けには46講座開講し、延べ4,752名が受講した。

海外への語学研修や修学旅行で海外への目を開きリーダー育成へとつなげる

このほか、「未来を切り開くリーダーの育成」のための行事として、毎年夏休みに、中学校3年生と高校1年生の希望者を対象に17日間のオーストラリアへの海外短期留学を実施している。2013年は52名が参加した。また、高校2年生の修学旅行ではマレーシアに行き、地域学習だけでなく、現地の生徒との交流や農村生活を体

<図表3>進路講演会の講演内容

2010年度：「大学で学ぶこと」について
2011年度：「大学における学び」について
2012年度：「法曹という職業 ～何をやってるの？どうしたらなれるの？～」

験したり、日本が海外で行っている国際協力の実態を学んだりする機会としている。

「短期間で語学力が飛躍的に伸びるわけではありませんが、海外で同年代の生徒たちと生活したり話したりすることで、コミュニケーション能力を高めたり、世界に目を向けるようになって、将来世界に羽ばたく生徒が増えれば良いと考えています」(若井校長)

さらに同校は日本の伝統文化を大切にしており、外部から講師を招き、家庭科で礼儀作法、音楽で三味線演奏などを学ぶ。授業以外でも部活動や地域の伝統行事参加で外部の大人から教える機会も多い。「こうした環境も生徒の職業観や人生観育成に良い影響を及ぼしていると思います」と瀧島主幹は言う。

このように6年間の多様な取り組みを通して生徒の視野を広げつつ、職業や大学について段階的に知り、進路実現の目標を持って学ぶキャリア教育を実施している。

東京都立白鷗高等学校・附属中学校

◇所在地：東京都台東区元浅草 1-6-22

◇設立：1888(明治21)年 東京府高等女学校創立
1900年 東京府第一高等女学校と改称
1948年 4月、東京都立第一女子新制高等学校、
12月に東京都立第一女子高等学校と改称
1950年 東京都立白鷗高等学校と改称
2005年 白鷗高等学校附属中学校開校

◇学級編成：[全日制] 普通科 各学年6クラス

◇生徒数：707名(男子340名、女子367名) 2013年9月9日現在

◇特色：戦前から女子教育の名門校として有名。戦後に男女共学となつて後は「辞書は友達、予習は命」を合言葉に、都立の進学校として発展してきた。また、学校設定科目「日本文化概論」の学習や和太鼓、長唄三味線の部活動、地元の伝統行事への参加など、授業、行事、部活動に日本の伝統文化を積極的に取り入れている。

◇卒業生の進路：2013年3月卒業生 230名
・進学先：4年制大学(大学校含む) 178名、短期大学3名、
専門学校6名
・合格者の内訳(現役生、延数)：国公立大学(大学校含む) 40名、
私立大学 439名

著名人による「キャリア教育講演会」などを通して 自分の生き方を考えさせるキャリア教育を実施

熊本県立玉名高等学校

熊本県北部の玉名市に立地する熊本県立玉名高等学校は、1903（明治36）年に熊本県立熊本中学校玉名分校として開校して以来、110年の歴史を持つ進学校である。同校では進路指導の目標に「充実した進路指導、キャリア教育で一人ひとりの力を伸ばし、夢の実現をサポート」することを掲げ、日々の学校生活を通じて、生徒が人生を切り拓いていく力を育成している。同校のキャリア教育の取り組みについて、進路指導主事の井澤俊樹先生にお話を伺った。

視野を広げ、自分の生き方を考えさせることを 大切にしたいキャリア教育を実施

「至誠・剛健・進取」を校訓とする玉名高校。このうち「進取」には「雑多な情報に惑わされることなく21世紀の自分の姿を見据えて、自分の目標達成に向けて常に前向きな精神で挑戦してほしい」という願いが込められている。

しかし井澤主事は現在の生徒について「不況で見通しが立たない世の中で育ってきたこともあり、安定志向が強く、地元に残ることや安定的な職業に就くことを前提に自分の将来を考えがちです。以前の生徒たちには地方に仕事がなければ都会に出ていこうという気持ちがありました。そうした生徒は年々少なくなっており、ましてや世界で活躍したいという生徒は減っていると感じます」と憂う。そこで同校では、学部・学科選択や職業選択だけにとどまらず、視野を広げ、「自分の生き方そのものに目を向け、考えさせること」に重きを置いたキャリア教育を実施している。

また進路選択で具体的に必要な力を<図表1>のように整理し、それぞれの活動でどの力を育成するかを意識して指導に当たっている。井澤主事は「いろいろな取り組みも行っていますが、大切なのは日々の活動であり、面談や日常の対話を通して生徒を育成することが大切です」と言う。

そうした日々の指導に加えて、キャリア教育に関する取り組みを実施することで、生徒がキャリアや人生について考えるきっかけや、自分もこうなりたいと奮起するような刺激を得られるようにしている。



井澤俊樹 主事

卒業生の話から、自分の将来を考えたり 大学生生活の魅力を知る

では取り組みについてみていこう。まず行われるのが、1年生の入学直後に行われる宿泊研修に卒業生を招いて実施する「ようこそ先輩」である。

「ようこそ先輩」は、これから高校生活を始める1年生に対して、身近な将来の姿を示すことが目的である。大学3年生や、大学卒業後2～3年程度の社会人を、毎年4名程度招いて、1人10分程度、話をしてもらっている。話の内容は、部活動と勉強を両立させながら進路を考え大学に進学したといった大学進学時の経験談や、現在大学や職場でどのように活躍しているかといった話を中心だ。大学3年生の場合は就職活動を前に改めて進路を考える時期であることから、現在の自身の進路観やその考えに至った理由などについても話してもらう。

例えば僧侶になった女性は、大学卒業後いったんは企業に就職しながら家業の寺を継ぐ決意をするまでの悩みや、修行を経て僧侶となった現在のこと、仏教団体の青年部の活動としてインドやネパールの寺院の修復活動に参加していることなどを話した。こうした話を聞かせることで、生徒の仕事に対する固定的な考え方や安定志向を揺るがすことができ、世界へ視野を広げることにつながっているという。

「ようこそ先輩」以外に、教育実習に来た卒業生にも、進路選択の経緯や大学生生活の様子を話してもらう。今年は「高校生に自慢できる大学生生活」についても話してもらった。例えば熊本市内のいくつかの大学の学生と協力

＜図表1＞キャリア教育に関する学習プログラム

職業的（進路）発達にかかわる諸能力	学習活動（具体的方策の展開例・教育課程への位置付け）		
	1年	2年	3年
人間関係形成能力 【自他の理解能力】 【コミュニケーション能力】	○新入生宿泊研修 【特別活動】 ○自己理解Ⅰ 「学習・生活」に関する ことのキャリアカ ウンセリング 【特別活動】 ○ボランティア体験 【特別活動】	○自己理解Ⅱ 「学習・生活」に関する ことの点検と計画 【特別活動】 ○自己理解Ⅲ 「学習・生活」に関する ことのキャリアカ ウンセリング 【特別活動】	○自己理解Ⅳ 「学習・生活」に関する ことのキャリアカ ウンセリング 【特別活動】 ○面接指導 (個人面接・集団面接・ 集団討論等) 【特別活動】
情報活用能力 【情報収集・探索能力】 【職業理解能力】	○キャリア教育講演会 等の各種講演会 「新入生宿泊研修・ 総学」 ○オープンキャンパス・ 模擬授業・一日看護 体験等 【特別活動】	○キャリア教育講演会 等の各種講演会「総 学」 ○小論文作成「総学」 ○オープンキャンパス・ 模擬授業・一日看護 体験等 【特別活動】	○キャリア教育講演会 等の各種講演会「総 学」 ○小論文作成「総学」 ○オープンキャンパス・ 模擬授業・一日看護 体験等 【特別活動】
将来設計能力 【役割把握・認識能力】 【計画実行能力】	○「ようこそ先輩」 「新入生宿泊訓練」 【特別活動】 ○【進学研究Ⅰ】 【特別活動】 ○英検への挑戦「教科」 ○教科選択ガイダンス 【各教科・特別活動】	○【進学研究Ⅱ】 (進路系統別学習) 【特別活動】 ○進学説明会 【特別活動】 ○英検への挑戦「教科」	○【進学研究Ⅲ】 (進路系統別学習) 【特別活動】 ○進学説明会 【特別活動】 ○英検への挑戦「教科」
意思決定能力 【選択能力】 【課題解決能力】	○職業に関する調べ学 習（勤労体験・イン ターンシップ等）【特 別活動】 ○当面する社会の課題 に対して研究する (教科横断的学習) 【総学】	○職業に関する調べ学 習（勤労体験・イン ターンシップ等） 【特別活動】 ○当面する社会の課題 に対して研究する (課題について収集 し、分析した結果を 発表する) 【総学】	○上級学校進学及び入 試研究 【特別活動・教科科 目】

してファッションショーの企画を行った学生、アルバイトをしてお金を貯め休学してヨーロッパを放浪した学生、バスバンドで全国一位になった学生、サッカーで活躍している女子学生と、さまざまな学生がいたという。こうした話をしてもらった理由を井澤主事は次のように話す。「本校でも大学で学ぶ内容や志望する大学について生徒に調べさせるようになってきました。大学は、学問の楽しさを知って専門的な知識や技術を修得し、大学生にふさわしい力をつけることが目的です。しかし大学について調べれば調べるほど、大学ではいかにたくさん勉強させられるかという情報に接することになり、生徒にとって大学が魅力的に映らないこともあるのです。大学時代は勉強に加えて、人生の中で最も自由にやりたいことができる時期でもあるはず。そんな大学時代の魅力を生徒に伝えるために、現役の大学生に生き生きとした大学生活を語ってもらうことは非常に意義のあることだと考えています」

さらに昨年度から、卒業式直後の3年生約4名に、2年生に対して受験勉強の仕方や受験期の過ごし方などについて話してもらい、2年生の受験に対する意識を高め、3年次からの受験勉強に意識を切り替えることに役立っている。

著名人を招いて「キャリア教育講演会」を実施

大学生や若い社会人だけではなく、著名人の話を聞く機会も設けている。2003年度から始まった、各界の著名人を講師に招いた「キャリア教育講演会」だ。毎年、冒険家や世界で活躍している人など、新たなことに挑戦し、人生を切り拓いてきた著名人に講師を依頼している＜図表2＞。著名人に依頼しているのは、立地もあり、生徒たちがなかなか話を聞く機会を持ってないからだ。

講演会は、以前は学年ごとに企画しており、各学年で行うべき学習などに関する講演が中心だった。これが著名人を招くようになったきっかけは、ある年の1学年が映画評論家の佐藤忠男氏を招いたことだという。この時の話の内容や生徒の反応などから、大学入試などの近い将来についての話でなく、世界で活躍する人の仕事観、いろいろなことに挑戦する姿勢といった話の方が生徒の刺激になるのではないかという意見が出た。また「自分の生き方そのものに目を向け、考えさせること」という同校のキャリア教育の指針とも一致している。謝礼の面での負担が懸案だったが、2003年度以降、保護者会から協力を得たこともあり、著名人による講演会として定着した。

初年度は学年別に行っていたが、せっかくなら全員に話を聴かせたいとの考えから、2004年度からは全校生徒で聴講している。回数は2010年度までは毎年3回、2011年度からは毎年2回実施している。つまり生徒は高校在学中に6人の著名人の話を聴くことができる。さらに、2010年度に附属中学校が設置されて以降、中学生も一緒に聴講している。

著名人を招くにあたってはスケジュール調整が最も大きな課題となるが、講師の日程に合わせて授業時間を工

＜図表2＞キャリア教育講演会講師一覧

年度	回	講師	講演題
2006	1	西田 善夫 元NHKアナウンサー	「スポーツの名場面、名勝負から何を学んだか」
	2	田部井 淳子 登山家	「世界の山々をめざして」
	3	和田 秀樹 精神科医	「21世紀を勝ち抜く知性と生き方を身につける」
2007	1	池田 香代子 作家・翻訳家	「100人村から見えること」
	2	長田 渚左 ノンフィクション作家	「スポーツを通して知る“人間・夢・人生”」
	3	上甲 晃 志ネットワーク代表	「自己変革のすすめ 自分から変わる勇気」
2008	1	小柴 昌俊 物理学者	「やれば、できる」
	第一体育館改修工事により実施せず		
2009	2	黒川 伊保子 感性アナリスト	「脳と心のヒミツ 「感性」とは何か」
	1	斎藤 孝 教育学者	「知情意体を合わせ持つ ～読書力とコミュニケーション力～」
	3	藤井 妙法 天台宗僧侶	「君たちの夢を叶えるために ～今なすべきこと～」
2010	3	永田 雅一 海洋ジャーナリスト	「“うみ”から見た地球の未来」
	1	舞の海 秀平 スポーツキャスター	「私の相撲人生」
	2	吉村 作治 工学博士	「夢を実現したい君たちへ ～君たちのエジプトをみつけよう～」
2011	3	木下 晴弘 株式会社アビトレ代表取締役社長	「君たちに伝えたい幸せの法則」
	1	米長 邦雄 プロ棋士	「苦しいときこそ最大のチャンス」
2012	2	福本 容子 毎日新聞論説委員	「可能性は無量大」
	1	渡部 陽一 戦場カメラマン	「戦場の現場から命を捧ぐ」
	2	福岡 伸一 生物学者	「生きることは学ぶこと」

(表中、敬称略)

夫するなど学校全体の協力を得ている。

ちなみに、井澤主事に個人的に印象に残っている講演を尋ねると、同時通訳の第一人者である國弘正雄氏、物理学者の小柴昌俊氏、作家で環境保護活動家のC.W.ニコル氏を挙げてくれた。「國弘さんは同時通訳者の方で、アポロ11号の月面着陸や、レーガン元大統領と中曽根元総理の会談の同時通訳を担当したりと、生徒にとっては教科書に載っているような歴史の節目に立ち会ってきた方です。その方による現場の裏話は、歴史を見る目を養う上でも、メディアリテラシーを育む上でも非常に有意義なものでした。また、小柴さんとC.W.ニコルさんはお人柄も素晴らしく、だからこそ、ニュートリノの観測や環境保護という大きな夢に賛同して協力する人々が集まってくるのだと感じました。特に今年講師にお迎えしたC.W.ニコルさんは、イギリスのウェールズ出身ですが、17歳のときに高校の生物教員に誘われて北極の調査に加わり、調査終了後も北極に滞在してイヌイットとともに暮らしたという経歴の持ち主です。その後日本に移住し、森林の再生活動などに取り組んでいます。17

歳で世界に飛び出し、人生を切り拓いたニコルさんの話は、生徒に大きなインパクトを与えたようです＜図表3＞。こうした講演会が刺激となって、夢を持って前向きに毎日を過ごしてもらえたらよいと考えています」

オープンキャンパスやインターンシップへの参加も推奨

オープンキャンパスやインターンシップへの参加も推奨している。

オープンキャンパスについては、1、2年生の希望者を対象にバスで九州大学のオープンキャンパスに出かけており、毎年100名程度が参加している。そのほか、学年を問わず夏休みに全員1回はオープンキャンパスに参加することを推奨しており、ほとんどの生徒が参加している。

インターンシップについては、医師、看護師、臨床検査技師、リハビリテーション専門職といった医療系の志望者を対象に実施している。医療系のインターンシップを実施しているのは、医療系の志望者が多いこと、医療

系は学部・学科の選択が職業に直結しているためミスマッチを事前に防ぐ必要があるからだ。

実施時期は2年生と3年生の間の春休みで、地元の病院が企画するインターンシップ事業に毎年30名程度が参加している。期間は2～3日で、内容は各病院によって異なる。このほか、夏休みにリハビリテーションに関心のある生徒が熊本保健科学大学のオープンキャンパスで保健科学部リハビリテーション学科が実施する理学療法や作業療法を体験できる模擬実習に参加したり、看護師志望者が地元の病院が実施する1日看護体験に参加したりする。

医療系以外の学部・学科を志望する生徒については「本来は全員がインターンシップを経験したほうがよい」としながらも、現在は行っていない。これについて井澤先生は「地元に残る卒業生が多く就職する、教員や公務員などの職種については受け入れ先が足りず、全員を受け入れてもらうのが難しいのが実情です。また、職種を広げると中学校で行うインターンシップとの差別化が難しいという事情もあります」と話す。

<図表 3> 2013年度 第1回キャリア教育講演会（講師：C.W. ニコル先生）を聴講した生徒の感想

●講話を聞いて一番印象に残ったのは、C.W. ニコル先生のやりたいと思っ
たらそれをやるまで積極的に行動するその行動力です。また、良い人は
質問をしたら必ず答えてくれるということです。私は行動する前にためらっ
てなかなか積極的に動くことができないときが多くあります。ですが、講
話を聞いて、やると決めたら行動に移したほうが良い方向にいくというこ
とがわかりました。これからは少し勇気を出して行動したいと思います。
勉強をする上で先生方は質問をした方が良くおっしゃいます。いま
までは質問をすることは少なかったのですが、これからもっと質問をして
周りの人からの経験やアドバイスをたくさん吸収したいです。私は将来デ
ザイン関係の仕事をしたと考えています。その夢を叶えるために今日の
先生の講話を活かして頑張ります。ありがとうございました。

(1年生女子)

●テレビで見たことがあったC.W. ニコルさんの話を直接聞くことができ、
とてもいい経験になりました。C.W. ニコルさんが今までどんな人生を送っ
てきたのか、そして、今日本で活動していることについての話は初めて聞く
ことばかりで、私も経験したいと思うものばかりでした。北極での生活の
話や、森を開拓し、その森を利用して日本人々を元気にされている話には
はすごく感動しました。熊本は日本の中でも自然が豊かな県だと思います。
しかし、その自然についてあまり深く考えることはありませんでした。しかし、
今日の話をきいて、もっと視野を広げようと思いました。視野を広げてい
ろいろなものに興味を持ち、いろいろなことを吸収しようという意欲があ
る人に夢につながるチャンスがめぐってくるのだとC.W. ニコルさんの人生
の話から感じました。自分はこうなりたいとまず夢をもつこと、そしてまず
自分から行動してみることの大切さを学びました。私もいろいろな国に行っ
てみたいです。未来のために今できることを一生懸命やろうと思います。

(3年生女子)

外の世界の人と接し、評価されて自信をつける
ボランティア活動

このほか、2年生がそれぞれ母校の小学校で数日間の
ボランティア活動を行っている。

地元志向が強いとはいえ、卒業後に地元を離れる生徒
も多いため、高校を卒業してそれぞれの目標に向かって
進み始める前に地元へ恩返しをすることと、自分の原点
を見つめ直すことを意図している。

小学校を実施先に選んだのは、1学年320名が同じ日
に実施できること、各小学校の実情に合わせて、学校周
辺の清掃活動や学習ボランティアなど、生徒が活動内容
を工夫でき、能動的に取り組めそうだと考えたことが理
由だ。

まず教員がボランティア受け入れを依頼する。その後、
生徒は出身校別に分かれ、代表者が母校の担当者と話を
して活動内容などを決める。このためグループによって、
ボランティア期間や内容はさまざまである。例えば期間
は1日～4日、内容も、朝、校門で挨拶運動をしたグル
ープ、児童に勉強を教えたり採点を手伝ったりしたグル
ープ、小学生では手の届かない高いところの掃除や重い物
の移動などの清掃の手伝いをしたグループとさまざま
である。

母校でのボランティアの最大の成果は「生徒が自信を
取り戻すこと」と井澤主事は話す。「成績が伸び悩んで
自信を失ったりしている生徒でも、小学校に行くと、児
童が周りにたくさん集まってきて、ヒーローになります。
ボランティアのあと、児童が寄せ書きをして送ってく
れる小学校もあります。また小学校の先生から、高校生が
来てくれるのは小学生の大きな刺激になると感謝される

こともあります。そして何よりボランティアを終えた生
徒の顔は、生き生きしています。外の世界の人と触れ合っ
て、そこで何かをして感謝される体験は生徒の自信にな
り、将来に夢を持って進む力につながると実感していま
す」

このように同校のキャリア教育では、日々の指導とこ
れらの取り組みを通じて、どんな社会情勢の中でも夢を
持って人生を切り拓いていける生徒を育てることをめざ
している。

熊本県立玉名高等学校（全日制）

◇所在地：熊本県玉名市中 1853

◇沿革：1903年 熊本県立熊本中学校玉名分校開校
1906年 熊本中学校から独立し、玉名中学校と改称
1912年 玉名郡立実科高等女学校開校、後に玉名郡立玉名高等
女学校に改編
1923年 玉名郡立玉名高等女学校が熊本県立高瀬高等女学校
に改称
1948年 玉名中学校は熊本県立玉名高等学校第一部、高瀬高
等女学校は熊本県立玉名高等学校第二部と改称。
1949年 男女共学の総合高校となる
2011年 附属中学校開校

◇学級編成：[全日制] 普通科 各学年8クラス（1年生のみ7クラス）

◇生徒数：[全日制] 913名（男子412名、女子501名）
2013年4月8日現在

◇特色：旧制中学以来の歴史を持つ伝統校で、熊本県北部の中核
校として熊本大学をはじめとする国公立大学や、全国の有名私
立大学に毎年多くの合格者を輩出している。部活動の加入率が
93%と高く、生徒は充実した高校生活を送っている。また、体
育祭の応援合戦は全国的に有名で、玉名高校生の誇りともなっ
ている。定時制も併設している。

◇卒業生の進路：2013年3月卒業生 317名
・進学先：4年制大学228名、短期大学8名、専門学校25名
・合格者の内訳（現役生、延べ数）：国公立大学（大学校含む）96名、
私立大学 347名